



# MDRPUを予防しよう。 予防のための対策手順と実例

## 佐野 加奈 さん

静岡県立静岡がんセンター 看護部  
皮膚・排泄ケア認定看護師

2004年より静岡県立静岡がんセンターに勤務。

2009年静岡がんセンター認定看護師教育課程の1期生として入学後、2010年皮膚・排泄ケア認定看護師資格を取得。2016年からは認定看護師教育課程の講師としてMDRPUの講義を担当。



MDRPUとは、Medical Device Related Pressure Ulcerの頭文字をとったものであり、自重に関与していない、あるいは関与しているかどうか判然としないが外力によって発生し、従来の褥瘡とは発生部位も異なる創傷を指します。

現代の医療安全の考えにおいては、患者さんをあらゆるリスクから守る姿勢が求められており日本褥瘡学会もMDRPUを医療安全上での重要な課題と捉え、2011年から実態調査やガイドラインの作成に動き始めています。

ここでは、MDRPUの基礎対策と静岡がんセンターでこのMDRPU対策をどのように行っているのかを実例を用いてわかりやすく説明します。

## MDRPU予防と管理の基本的な流れ

MDRPUの発生要因は大きく分けて『**個体要因**』『**機器要因**』『**ケア要因**』の3つに分類されます。MDRPUは体と医療機器との接触部分で起こる創傷であるため、予防のためにはまずは患者さんの皮膚の状態や体の突出部などの『**個体要因**』と医療機器のサイズや形状などの『**機器要因**』をしっかりとアセスメントし、その上でケア計画を立案し、機器の適切なフィッティングを行う必要があります。

### ◆予防の基本的な流れ(治療開始前)◆

#### ①『**個体要因**』『**機器要因**』をアセスメント

#### ②医療関連機器の素材・サイズ選択に必要な身体計測と情報収集

#### ③ケア計画の立案と実施

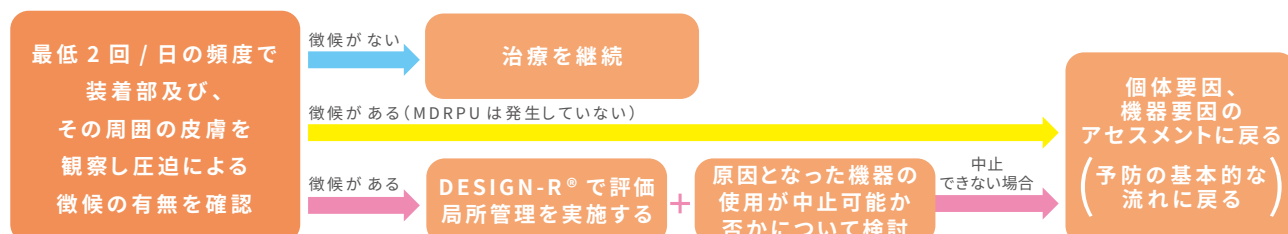
※個体要因、機器要因の危険因子に「あり」がある項目に対し、リスクを取り除くあるいはリスクを下げるためのケア計画を立案する。

#### ④医療関連機器の適切なフィッティング

上記のステップによって予防を実施したとしても、その後の管理は欠かせません。治療を開始した後はMDRPUが発生していないかをチェックし問題があれば対策を講じる必要があります。

管理は次のようなチャートとなり、MDRPUの原因となった機器の使用が中止できない場合は、損傷しやすい皮膚かどうか、使用する医療機器に対してMDRPUを発生させないための予防方法はどうしたらいいのかなど、個体要因と機器要因について考える必要があります。

### ◆管理の基本的な流れ(治療開始後)◆



# 具体的な対策事例 .....

## 血管留置カテーテルによる MDRPU の対策

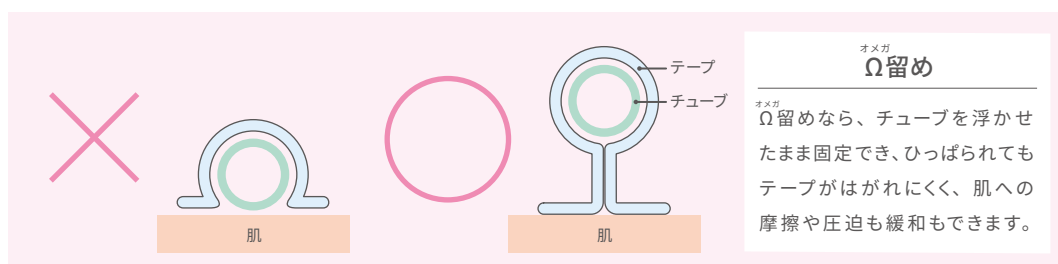
血管留置カテーテルの場合、関節の動きが出やすい所は摩擦とずれが生じやすく、手の甲や足の甲などの皮下組織が特に少ない部分はリスクがかなり高まります。ロックナットの部分がギュッと上から押され続けたことでMDRPUが発生してしまいます。また、せん妄などで固定用の包帯を上からギュッと保護する時にも気をつけなければなりません。

下の写真の事例では装着時にロックナットの部分が皮膚を圧迫しないように滅菌済みのクッションドレッシング『ココロール カテ用』を挟んでから対応しました。リスクが高い場合には予防的な対策をとることで MDRPU の発生を回避することができるため、どのような部分にできやすく、どのようなものを使えば効果的に予防できるのかということも考えていく必要があります。



またクッション材を使うことも大事ですが、チューブの固定方法も重要です。下左図のような方法で固定すると、上からテープで押されてチューブと皮膚の接触部分に強い圧迫が加わります。固定も弱くなる上に、MDRPU の発生頻度も高くなってしまいます。

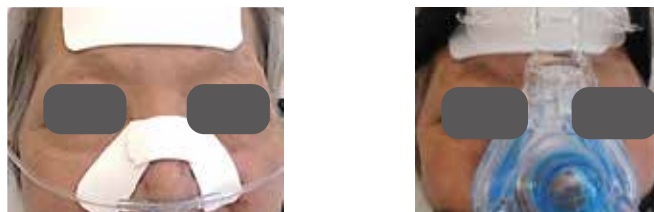
右下図のようにしっかりと『Ω留め』することをお勧めします。『Ω留め』ならテープとチューブの接着面積が多くなり固定力が増す上に、少し遊びができることでチューブと皮膚が接触せずにチューブによる圧迫を与えないという効果があります。



## NPPVマスクによる圧迫の軽減

下の写真はクッションドレッシング『ココロール』を使用した NPPV マスクの圧迫軽減の事例です。マスクと固定ベルトが当たる部分に、直接貼って除圧を図りました。

ここで注意すべきは NPPV マスクはどうしても湿潤環境に陥りやすいという点です。皮膚の脆弱な方の場合にはテープの粘着による皮膚損傷を避けるために機器側にクッションドレッシングを貼り付けるなどの工夫が必要です。



## MDRPU は意識次第で予防できる損傷 .....

大切なのは医療機器を装着するすべての患者さんに MDRPU が発生する危険性があることをまず理解することだと思います。

そして すべての医療者が MDRPU に対する認識を持って、多職種で MDRPU の予防と管理に取り組む必要があります。MDRPU は予防できる損傷なので、その医療機器はその患者さんにとって本当に必要かどうかをこれからもチームで考えていきたいと思っています。

● 以上の内容は、あくまで予防対策の一例として紹介するものであり、効果を保証するものではありません。

テープが医療にできること、もっと。

**skinix®**  
www.skinix.jp

株式会社 共和 メディカルグループ

大阪本社: 〒557-0051 大阪市西成区橋3-20-28  
TEL: 06-6658-8217  
FAX: 06-6658-8101  
東京支店: 〒135-0016 東京都江東区東陽5-29-16  
TEL: 03-5634-3843  
FAX: 03-5634-3845  
札幌・仙台・名古屋・熊本